

No.8

2001. 9. 1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人
地球の木 理事会
■発行責任 横川芳江
■編集 広報部
■事務局 〒222-0033
横浜市港北区新横浜2-8-4
TEL 045-471-5536
FAX 045-471-5543
E-Mail:CZR10753@nifty.ne.jp

CONTENTS

- 今年の地球の木はおもしろい!
- 直撃インタビュー：ソン司祭に聴く
- 支援地から今起こっていること>
- 先生と創る、探究心を呼びおこす授業
- フィリピンにはまってしまった私
- INFORMATION
- インド地震報告

今年の地球の木は おもしろい!

出会いが人生を変える

7年前のあるカナダ人女性との出会いが私に大きな影響を与えました。そのころ新米主婦の私は、病気の我が子の子育てや、同居していた義父の介護など多くの悩みを抱えメソメソしていました。そのカナダ人女性、エコロジストのトレーシー・ロリオさんは、独特の思考と行動を私に示し、「無知であるが故の無神経」「できることから実践、それでなければ何もはじまらない」という大切なことを教えてくれました。地球の木でおなじみのアンニャ・ライト*さんは彼女の親しい友人です。

その後しばらくして、カンボジア視察報告会に初めて参加し、“おばさんパワー”に圧倒され、思わず会員になってしまった私が、設立10周年記念事業の企画を担うことになろうとは考えてもみませんでした。企画書を作りながら「どんな出会いが人生を変えていくのかわからないものだなあ」としみじみ感じています。

異文化に触れよう

昨年、横浜国際協力まつりで「21世紀のパートナーシップ」をテーマにしたシンポジウムが開催されました。その時ネパールのニルマラK.C.さんと共にパネリストであったベトナムのソン神父の「足元に目を向けよう」という提言に、地球の木の会員は大いに触発されました。そして2001年の活動方針には、身近に

暮らす外国人と出会い、その問題についても考えていこうということが加わりました。

10周年記念事業のテーマは「手をつなぐアジアの女性たち パートⅢ」として、日本に暮らすたくさんの外国の方々との出会い、発見するイベントを次のような2つのステップで行います。まず各地域主催により、日本の中の異文化に触れるフィールド・トリップなどの学習会を予定しています。アジアをはじめ、いろいろな外国文化に触れる興味深い企画が目白押しです。そして12月9日には講演会ならびに交流パーティー、プロのアーティストによるコンサートが行われます。講演会のゲスト・スピーカーは、フィリピン出身のレニー・トレンティーノさんです。グローバル化の矛盾に対して、信念をもって力強く取り組んでいるレニーさんは、多くの人の共感を呼ぶことでしょう。パーティーでは、地域の取り組みで出会ったたくさんの外国の方々と交流します。そしてイベントのクライマックスは、ネパールのチョウタリ・バンドによるコンサート。ヒマラヤの風を感じる幻想的でダイナミックな音楽に酔いしれて下さい。

さあ、設立10周年を迎えた地球の木はおもしろい！
数々の場面であなたと出会えることを楽しみにしています。どうぞみなさんご参加下さい。

*アンニャ・ライトさん オーストラリア人。歌やパントマイムをとおして、わかりやすく森林保全を世界に訴えている。地球の木でも数回講座を行った。



「Tシャツの神父
ソンさんに聞く！」

国境をとっばらえば 私たちみんな地球人

滞日外国人と連帯する会代表のファン・ディン・ソン神父を川崎の鹿島田教会にお訪ねしました。2000年秋のシンポジウム「21世紀のパートナーシップ」にパネリストとして参加くださったソン神父の「もっと私たちの足元を見つめなければいけない」という発言が、海外にばかり目を向けがちな国際協力のあり方に波紋を投げかけました。

『国際化』って何？

乳井 ソンさんの発言が地球の木の中にも新しい風を起こしています。今年12月の設立10周年記念行事に向けて、地域の在日外国人の方々と交流し、彼らがどんな問題を抱えているのかまず知ろうという声があがり、今や大きなうねりとなって動きだしました。

ソン 20年前、僕がベトナムから難民として日本に来たばかりの頃、「国際化」という言葉がしきりに叫ばれていました。僕には何のことがさっぱり解らなかった。日本は、外に向けた国際化はODAなどでたくさんの援助をしています。でも、国内では外国人を受け入れない。人権保護など無いに等しいです。ODAで途上国から研修生を招きますが、給料は12時間労働で10万円しか払っていない。桜えびを出して車えびを取っているようなものです。

乳井 えびで鯛を釣るということでしょうか？

ソン そうです。また、外国人がアパートを借りようとしても名前を言っただけで断られてしまいます。アメリカなら人権侵害だと訴えられますが、日本には外国人の人権を保護する法律すらないので泣き寝入りするしかないのです。学校でも外国人に対する差別やいじめがあります。子どもは偏見をもって生まれてきません。偏見を植え付けるのは親や先生、大人たちです。しかし、これに対して学校は何もしていません。

一人の人間として受け入れる

乳井 在日外国人の問題を取り上げようという話し合

いの中で、「この問題は重過ぎて、とても私たちの手に負えるものではないのでは…」という意見も出ました。確かにオーバーステイ（ビザがきつた後も不法に滞在している）の方たちの問題は私たちの力でどうこうできるものではないかもしれませんが、しかし、ここ数年地球の木がやっている学校への出前講座の中で国際理解を進め、「国や文化や言葉が違って、肌の色が違って、能力に差があっても、みんな同じ人間なんだよ」ということを伝えていけば、外国人だけでなく日本人に対する差別やいじめもなくなっていくことができると思うのです。

ソン それはすばらしいですね！私はベトナム人で、乳井さんは日本人です。でも、国は人間が線引きしたもの。元の状態に戻して考えれば、人間と人間との関係です。どこの国の人でも、隣の人が外国人であろうと日本人であろうと、一人の人間という単位で受け入れる意識をもたなければ真の国際化は進みません。日本人でも外国人でも困っていたら助ける。これが第1のステップで、国際化は後から付いてくる。

乳井 地球儀から国境線を取っばらっしまえばいいのですね。

理解しようとする姿勢が大切

ソン そう。国でなく個人を知ることが国際化の第一歩です。僕は以前「オーバーステイは悪い」と決めつけていました。ある時、オーバーステイの人に頼まれてある所に道案内をしていたのですが、途中でその人が急に消えちゃった。警官を見て逃げたのです。その時、僕は「なぜ危険を冒してま

でオーバーステイするのだろうか？」と考えました。それぞれが非常に複雑で簡単に解決できないような重い問題をかかえていて、その人の立場に立ってみると一概に「お前は悪い」とは言えなくなっちゃう。ともかく相手を理解しようとする姿勢が大切ということを教えられました。

無視しないで受け入れること。理解しようとする。心の目で見なければ見えません。感じたことしか解らないからです。そして、会うことから私たちがの方がエネルギーをもらいます。

乳井 それは支援を通じていつも感じていることです。私たちが村の人々から元気をもらって、それが活動の原動力になっています。

ソン みんなが「人」という字のように支えあって、その輪がひろがって、地域で様々な問題に対処できるようになれば、滞日外国人と連帯する会なんか必要なくなるのです。そして、この「内なる国際化」は家庭から始まります。子どもを一人の人間として見るのが大事です。家でやっていないことは外でもできませんから。

乳井 今日は心に響くととてもいいお話を伺うことができました。国境を越えた人間と人間との関係が生まれる、そんな場をこれからもつくり、会員の方たちにも提供していきたいと思います。

ファン・ディン・ソン神父の プロフィール



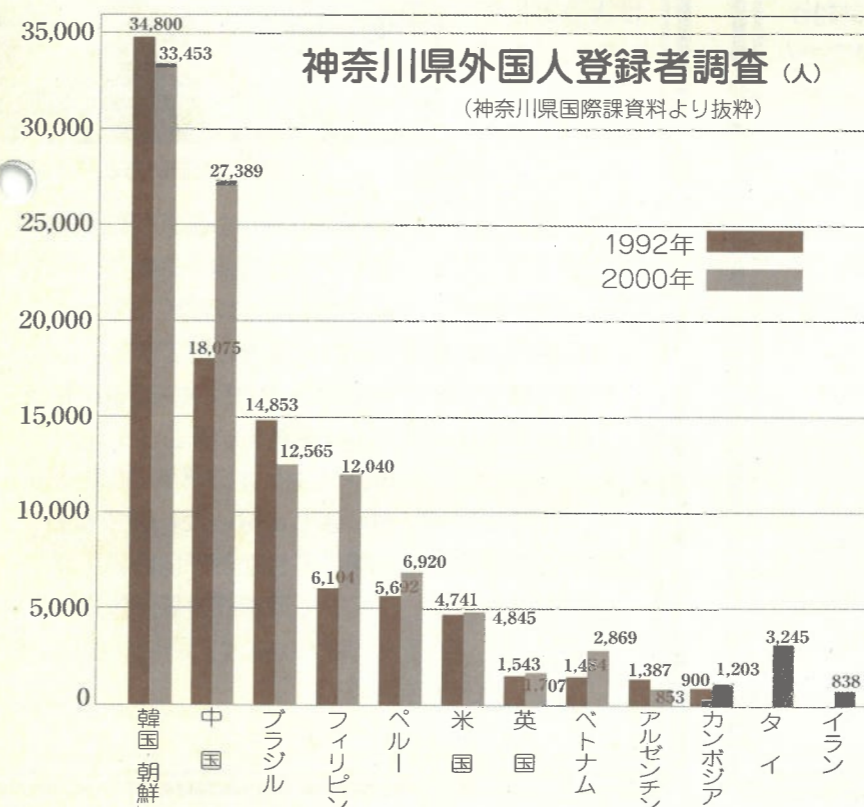
カトリック司祭
鹿島田教会主任

1982年に難民として来日。1992年上智大学の神学部を卒業し、1994年司祭となる。

阪神大震災の時、ベトナム人被災者救援のため、難民定住委員会により現地に派遣された。

ベトナム語のラジオ放送をたちあげ、ベトナム人被災者の精神的支えになる。ベトナム料理の炊き出しを被災地各所で行なうなど文化交流で先入観をのぞく試みをする。またベトナム人親子のコミュニケーション・ギャップをなくすために日本語教室とベトナム語教室を開催。両国語で書いた雑誌「故郷の響き声」を発行。1996年3月まで神戸で活動し、1996年4月より現職。2001年4月より「滞日外国人と連帯する会」代表。

ベトナムのストリートチルドレン支援のためレストラン「クエトイ」を経営。



神奈川県外国人登録者は154ヶ国、123,179人です。(2000年12月31日現在)

ことば

滞日外国人と連帯する会

滞日外国籍の人々が抱える具体的な問題に取り組むカトリック横浜教区の活動団体。

フィリピンデスク、韓国デスク、ラテンアメリカデスクがあり、電話相談応じている。

労働問題、出産、子どもの養育、家庭内暴力、医療など幅広く対応している。

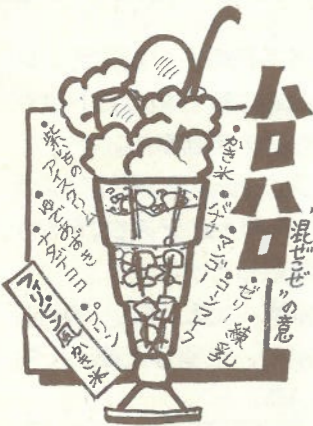
フィリピン スーパー・ロビンソン

ツプラン農場からバコロドの町まで車で1時間くらい。走り続けるとだんだん車が多くなって3車線、それでも車が一杯でゆっくり進んでいる。その道路を人が横断する。日本では信じられない風景だ。

ロビンソンという大きなスーパーに着いた。日本の郊外の大型スーパーと同じで、オートドアを入ると全館によく冷房がきいている。品物があふれるように積んであり、洋服のパーゲンは日本とほとんど同じだ。食料品売り場ではバナナが吊るしてあったり、トマト、たまねぎはワゴンの中に一杯、日本に進出している外資系のスーパーと同じで天井まで積み上げられている。レジが終わると店員が、買った品物をナイロン袋に入れてくれる。

レジの前にはファーストフードのスタンド型の店、出入り口にはアイスクリームの店、買い物終わった人が買って食べている。

ここがネグロス島の中で、サンフリアン村から車で2~3時間の所にあるスーパー・ロビンソン、ちょっと冷たくすましている。ロビンソンの冷房のきいたレストランで食べたハロハロ*は、プリンも紅いもアイスもトッピングも、色鮮やかで美しかった。でも私は暑い中、村の近くの市場で食べたシンプルなハロハロが、美味しい思い出となっている。(相模 広瀬 康代)



*ハロハロ…
混ぜこぜを意味する。
フィリピンの歴史も
わかる代表的な
デザート

ラオス 「JAPAN」が走る!

5年ぶりに訪れた首都ビエンチャン。「JAPAN」の文字が入ったゴミ収集車が走っている! ラオスの国家予算の半分は援助で成り立ち、その中でも日本からの援助金が一番多い。ラオスでは援助といえば日本、日本と言えばJICAと言うほどラオスと日本の援助関係は深い。1994年にメコン川6ヶ国(タイ、カンボジア、ミャンマー、中国、ベトナム、ラオス)総合開発計画が始まった。この開発には日本政府からも多額の資金が入っている。豊かな水資源を持

ラオスでも水力ダム建設が急速に始まった。その電力をタイに売って外貨を稼ぎ、道路整備等のインフラを進め経済力をつけようとしている。5年前、でこぼこ道だった国道13号線は日本の援助で舗装され、国道沿いの村でも電気が使えるようになった。ビエンチャンの街灯の光は明るい。だがその電力量は、生産された電力の量の3割との事。残りの電力は外貨稼ぎのため輸出されている。

外貨を稼ぐことが重要な課題のラオスでは、観光に力を入れ新しいホテルが増えている。

しかし、ビエンチャンやタケオの都市では物乞いをしている人が目に付くようになった。持てるもの、持たざるものの格差が開いてきたと感じる。

(ほくぶ 飯田 信子)



焼いたおもちとバナナを売るラオス女性

ネパール 開発の波に さらわれないためには

5年前の初めての極西部への旅は、資本主義社会の生ぬるいお湯に浸かって数十年生きてきた私にとっては、まるで「インディー・ジョーンズ秘境に行く」という感じの冒険に満ちた旅でした。いくつもの川をジープで水しぶきを上げながら渡り、「シャワー(と言っても井戸か蛇口だけ、もちろんお湯なんて夢のまた夢)を浴びてもまたどうせ土けむりを浴びるのだから、それに冷たいから止しておこうか…」というくらい赤茶色の舗装されて

いない道が続いていました。

雨期になって川が増水すると極西部は陸の孤島。大雨で道がぬかると動きがとれません。私たちのジープもジャングル(ネパールでは大きな森をジャングルと言う)の中でわだちにはまって、あわや、ジャングルで一夜を明かすのかと気をもんだこともありました。

ネパールの中でも最も立ち後れていると言われていた極西部にも開発の波が押し寄せてきているのを最近とみに感じます。道路が舗装され町が近くなったので、村の人々は町で需要のある有機栽培の野菜を作ろうと言い出しました。こんな時、開発はみんなの味方です。しかし、知って欲しくない情報も所かまわず入ってきます。「あっちのNGOではもっと給料をくれるそうだ」こんな家族からのプレッシャーと戦っているリーダーもいます。大きなNGOにスカウトされた優秀なリーダーもいます。

開発に歯止めをかけることはできません。いかに顔の見える信頼関係を築いていくかが支援のゆえを決めるのではないのでしょうか。

(なんぶ 乳井 京子)

カンボジア 水に浮く学校?



カンボジアは、ただいま雨期です。最も暑い4、5月を過ぎ、雨が降り出すと田植えが始まります。雨期と乾期では、カンボジアの景色が違って見えるそうです。雨期は緑にあふれ、たくさんの果物や水草が、食の豊かさを市場にもたらします。反面、雨が1日に数回降り、湿気も多く、時にはせっかく育てた畑のかぼちゃが冠水し、全滅してしまうのです。

カンボジア最大の湖トンレサップ湖は、乾期の3倍にも膨れ上がり、メコン川から逆流してくる水は、付近の道を沈めてしまいます。7月からもう川の水位が上がり昨年同様に大洪水が心配されています。多くの森林が失われ保水能力がさがっていることや、地球温暖化のせいでしょうか、東南アジアの雨期の降水量が増えているようです。多くの漁民や農民は、洪水に大変悩まされますが、対処法も様々に工夫しており、水に浮く学校や、高床の家、ボートの備えなど、洪水によってもたらされる自然の恵み(肥沃な土地、魚の繁殖など)も知ったうえで、しのいでいるようです。かえってプノンペンなどの都会に住む外国人などは、大使館のメールに一喜一憂し、水門の開放が無い様に祈っているようです。

さて最近、子どもたちの間で腕に張るシールが流行っているそうです。懐かしいですね。濡らして腕に張り、こすってからシールをはがすと腕に絵柄が移るものです。どんな絵柄があるのでしょうか。

(ほくぶ 小泉 恵子)



おもしろかった！
もっと知りたい！

先生と創る、探求心を呼び起こす授業

なんぶ 丸谷 士都子

2002年から学校で「総合的な学習の時間」がスタートします。地球の木には小・中学校からの出前講座の問い合わせや依頼が増えてきました。私たちが授業をするにあたっては先生たちとの話し合いが大切で、これが、うまくいくかどうかの決め手となると言ってもいいでしょう。今年、緑区の横浜市立三保小学校5年生の総合学習に年間を通して協力することになりました。その初めての授業の報告です。

「子どもたちの反応は予想以上でした！」地球の木と共に作った国際理解講座の報告に来訪した宮下真先生のことばです。たくさんの“知りたいと思うこと”が三保小学校の子どもたちの感想文に書かれていました。「バナナが日本に来る量、交通手段、日本が輸出している物も知りたい」「別のくだものことも知りたい」「ネパールの人の暮らしをもっと知りたい、ほかの国も知りたい」

先生たちとていねいな準備を重ね、7月9日に、地球の木による4つの国際理解講座が開かれました。内容は、貿易ゲーム、マジカルバナナ、フィリピン・ネグロス島の暮らしを知る、ネパールわくわく講座でした。子どもたちはそれぞれ好きな授業を選んで参加しました。一週間後に、体験した授業をクラスで発表した時には子どもたちに大きな学びが感じられたとのこと。なかにはゲームの紹介をし、ルールの説明をして再現してみたグループもありました。

今までにない経験で、先生たちも苦労されたようですが、授業は大きなインパクトがあり、町を歩いてい

ても学んだことと関連した情報をキャッチする目が育っているのが感じられたそうです。

宮下先生の構想は、まず体験し、気づき、調べて事実を知ることが第1段階。考え、感じたことを発表や討論会などで伝えあい、共有しあうことが第2段階。これは保護者やNGOなども交えて行われます。第3段階が行動です。どんなアイデアが生み出されるのかわくわくします。

感想文

貿易ゲームをやってみていろいろなことがわかった。まずお金をもってる国と、お金をもてない国がわかった。ぼくたちのすんでる日本は、お金のありすぎる国だった。

つぎに、お金をもってる国ともてない国のちがいがわかった。お金をもてる国は、しげんがないだけで、ほかのものはほとんどそろっている。お金があるので、そんなこと(しげん)なんてきにしらない。(買えばいいのだから)だが、お金のもてない国は、しげんは、いっぱいあるけども、ほかの物がまったくない。お金をもてないので、お金のある国がしげんを買うみたいに、できないのである。それをみてとてもかわいそうだと思いました。こんな不こうへいな貿易はないほうがいいと思いました。(K.K君)



どうしたら売れる製品が作れるかな？(貿易ゲーム)

総合的な学習のねらい

1. 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
2. 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える事ができるようにすること。

(小学校学習指導要領による)



フィリピンに はまってしまった私



私は今、日本にいる。こここのところやっとフィリピンの生活感覚がぬけてきた。でも目をつぶるとすぐにフィリピンの景色がでてくる。

フィリピン。たくさんしげった草や木、広い草原、今にも吸い込まれそうな夕日。日本では…もう見れない。

フィリピンの人が「日本は最高の国」と言ってくれた。でも、私の最高はフィリピン！

大きな自然に囲まれて一人一人が自由に飛び回って、木の上でねっころがったりして、満天の星を見上げて…夜なんて一晩中ダンスを踊ったりして…しかし、本当に私の心にしみたのはフィリピンの人たちの笑みだった。私はすごい温かさを感じた！初めて会った時からたくさん笑顔をくれて…すごく自然な私でいられたよ。

プラン農場、一人一人の個性がわかったよ。

ひとりの子が私に物をゆずってくれた。そうすると私もゆずり返したくなる。その時わかった、こうやって思いやりが生まれるって。自分のことより他人のことを考えるフィリピンの人たちを私はとても尊敬した。

サンフリアン、仲良くなった私は日本語、英語という言葉の壁が消えた。人間、壁なんてないものだと思えて実感した。生活の壁も消え、私は快適に暮らせるようになった。

自分で引き上げて作る水、すごく疲れたけどシャワーを浴びた時すごくありがたみがわかった。便座がないトイレ、やせそうだと思った。けっこう気分よかった。そしてたくさん動いた後の夕食は何ものにもましてお

いしかった。向こうの人は、日本人と味が合うかけっこう気にしていた。しかし、そんな心配は全然いらな

いんだ！
食事中、フィリピンの子のスープの中にハエが入った。私は目をまんまるくした。その子はスープの中のハエをスプーンで取り出して、又食べ始めたのだ。私だったら回りの目を気にして絶対食べない。そんな私の考えがすごくバカバカしく思えた。

サンフリアン、私は悩みごとをしていた。気づいたら、回りに小さい子が集まってきているのではないかと私をくすぐって笑わせてきた。私もいつの間にか一緒に遊んでいて、すっかり悩みなんて消えてしまっていた。

その後、小さい子、おじさん、おばさんともダンスを踊った。驚いたことに若い私より体の動きがよかった。



サンフリアンの人、さみしい時、私にそっとくっついていてくれた。さみしい時、コーヒーをいれてくれた。ナナイもタイも何もできない私の面倒をたくさんみてくれた…私のサンダルがこわれた

時、自分のサンダルを貸してくれた子がいた。困った時、手を引っ張ってくれた子がいた…すごくすごく感謝している。

私は本当にフィリピンに行ったことを心から良かったと思った。最後にみんなで泣いてしまった。その時私はもっとフィリピンにいたいと思った。きっとまだまだ私の知らないフィリピンがたくさんあるんだろう。私はもっとフィリピンの事を知りたくなった。来年も私はフィリピンに行くと思心に決めた。

(2001年春 青少年スタディツアーに参加)

地球の木設立10周年記念

「手をつなぐアジアの女性たち」PARTⅢ

日 時 12月9日(日) 13:00~17:00
場 所 オルタ館スペース・オルタ
基調講演 レニー・トレンティーノさん
(滞日外国人と連帯する会)



交流パーティ 軽食付き
ミニ・コンサート ネパール チョウタリバンドの
幻想的な音楽をお楽しみ下さい
参加費 前売り券1,000円 当日券1,200円
共 催 地球の木、スペースオルタ

緑区生涯学級

「あなたの隣の外国人」

「国際化は家庭から」ファン・ディン・ソン
「ラオスは今」地球の木ラオスチーム他
5回連続講座(10月2日・10日・30日・11月13日・27日)
場 所 ハーモニーみどり(JR横浜線中山駅徒歩7分)
時 間 10:00~12:00
参加費 500円・保育あり
締め切り 9月25日

サラワク民族と語ろう

森を食べるのは誰?

日 時 10月19日(金) 18:30~21:00
場 所 オルタ館スペース・オルタ
ゲスト マレーシア・サラワク州住民議会議長他2名
参加費 1,000円 地球の木会員800円
共 催 地球の木、スペース・オルタ

横浜国際協力まつり

出合い・発見・私にできること 一つながっているんだ世界と私一

日 時 11月10日(土) 11日(日)
場 所 産業貿易センタービル
エスニック料理&グッズ、シンポジウム、セミナー
も開催
地球の木セミナー: 10日午前「ただ今進行中 小
学校と作る国際理解教育」

VISON特別講座

生活クラブ運動を英語で語ろうPART2

日 時 11月1、8、15、22、29日の5回
16:00~18:00
場 所 オルタ館まなびや
講 師 永島順子、植野道子(地球の木会員)
受講料 10,000円 地球の木会員1割引き
共 催 地球の木・VISION

広報・編集ボランティア募集

会報を作りたい人、パソコンのできる人、
イラストの好きな人大歓迎。事務局までご連絡下さい。

- イベントに関しての問い合わせ、申し込みは、地球の木事務局までTEL.045-471-5536 FAX.045-471-5543
- 2001年フィリピンとネパールのスタディツアー記録集
をご希望の方はご連絡ください。
- ホームページ
<http://homepage1.nifty.com/EarthTree/Index.html>
- 地球の木では横浜市内に事務所を探しています。お心
あたりの方は、ご連絡ください。

インド西部大地震募金活動にご協力いただき ありがとうございました。支援先が決まりました

今年1月26日、インド西部を襲った大地震に対し、地球の木は神奈川県国際交流協会や、県内NGO、県職員と共に「かながわ被災地NGO活動支援委員会」を結成し、広く募金を呼びかけましたところ、総額4,074,377円(7月7日現在)という多額なご寄付をいただきました。7月5日「募金配分委員会」を開催し下記の基準を満たした2つのNGO団体に支援金を寄託することに決まりました。

- ①これまで信頼できる活動を行っている。
- ②緊急救援だけでなく中・長期的な視野を持って復興活動ができる。
- ③住民主体の活動であること

寄託先

- DMI(災害緩和研究所)
住民主体の街づくり、NGO活動を行っています。横浜防災会議にも参加。
- ASAG(アーメダバード研究アクショングループ・アサック)
開発問題の専門NGOとして政府からも信頼を得ており、子ども対象の活動もしています。
現地ではなお瓦礫の中の生活を余儀なくされており、復興には10年以上の歳月がかかるといわれています。
1月には現地調査を行う予定です。
横川 芳江(かながわ被災地NGO活動支援委員会委員長)

